

コヴェントリーⅡサイクル劇 (XVIII)

橋 本 侃

第二十六番演目 受難劇 (I)

写本三十六頁 (N帖)

「魔王の口上」

(1)

魔王 俺は地獄から出て来たお前たちの主人ルチフェルだ、

この世の支配者、地獄の偉大な大公様だ。

それゆえ、俺はサタン様という名で呼ばれている。

その名がお前たちの間で悪く言われる一方なので、その秘密をばらさずにはおけまい。

(2)

俺は罪を育み、人間を破滅させ、

牢獄へ連れてゆき、火焰の中にいつまでも置きっぱなしにしておく。

俺に仕える者なら誰にでも報いてやることができるから、

いつまでも数多くの痛みの中で、「悲しい、悲しい！」と歌わせてやる。

(3)

見ろ！俺はこれほどまでに気前がいいご主人様なのだ――

俺と同じ資質を持つからこそ罪人たちに報いてやるのだ。

俺の言葉に従い、日々仕える者には誰でも、

悲しみも痛みもなくて困るようなことは絶対にさせない。

(4)

それというのも、天国に罪をしかと播いておいたからだ、

光り輝くすべての天使たちの間に。

そのせいで、地の底の底にある地獄へと追放されてしまった、

俺様がもつとも美しい、光を携える者であったにもかかわらずだ！

(5)

それでも、輝く天使たちを俺の後衛軍に引き入れ、

一緒に地獄まで連れて降りた――言っていることをよく聞いておけ。

一個部隊の天軍に対抗させるべく二個部隊だけを光の中に置いてきたが、

第三部隊は俺と一緒に地獄へ下った——これを誰も「否」とは言えまい。

(6)

俺が支配する一人一人の民よ、お前たちの主君が言っていることに注意を向け、
どんなずるい手を天国で使いまくったのか言ってみろ。

一時間のうちに天使一千の魂を手に入れるなど、単なる物笑いの種に思える。
なぜなら、もう第一日目にして、俺様はアダムとイブを支配したのだから。

(7)

しかもいま、すばらしい考えが脳裏に浮かび始めたぞ——

25

ヨセフとマリアの息子と呼ばれるキリストとかいう奴のことだが、
実に巧妙な頼みごとをして三度も奴を誘惑してやった。

体力や分別の限界に逆らって、奴が四十日も断食をした後のことだ。

石からパンを作らせようとしたが、直ぐに終わりにしてしまった—— 左百三十六頁
その時、奴は尖塔の上にいたが、天使たちは奴を下から支えた。 30

奴が出した答えはみんな驚くべきものだが、奴の真意は分からなかった——

そして、事の最後は、むなしい栄光へと導いたが、俺の目論見どおりにならなかった。

(8)

おまけに、いまや奴には十二人の弟子がいて、仕えさせている。

どの町にも市にも、先ぶれとして弟子たちを遣わし、
様々な場所で、奴のための食料調達をさせている。

奴の仕業に人々はびっくり仰天している。

その仕業は片輪や、めくら、おしにとつて効き目がある。

四日も死んでいたラザロの命を取り戻した。

俺が誘惑しようとしたくらんでいと、奴は直ぐに攻め立ててくる。

また、マグダラのマリアの罪をしつかと赦してしまった。

(9)

奴は神の子のふりをし、乙女から生まれたと称し、

人間を救うために死ぬつもりだ、とほざいている。

ならば、真理そのものを試さなくてはならないし、これ以上、ぐずぐずしてはおれない、

とくに奴の魂が肉体から離れる時には。

それに、俺の偉大な支配下にある連中については、

奴の目論見を遂げさせたりはしない。

俺の目論見を旧約聖書に合わせて言えば、

「地獄ニアル者ハきりすとニヨル贖イヲ受ケナイ」となる。

(10)

だが、奴を迫害する時が近づけば、

悪辣な陰謀に向けて新しい工夫をし、

非難をいっばい用意し、奴を破滅させてやろう。

そのようして、奴を慕う奴らが証言する時には偽証させ、

弟子たちが奴を見捨て、「奴は師匠じゃなんかでない」と言わせるように仕向けよう。

奴の痛ましい嘆きの傷が数限りなくあるようにしよう。

一人の裏切り者が奴の死を確実にするようには計るはずだ。

そいつが俺に浴びせた非難の数々を、今度は奴の不興をこうむらせるように変えてやる。

(11)

弟子のうちには教皇に叙階される者もいるだろうが、

百三十七

実は、そいつが師匠の信頼を裏切ったという事実を確認させてやる。

こうして、巧妙な手を遣って、不当にも嘗めさせられた俺の苦難のすべてに復讐を遂げてやる。

なぜなら、俺様の分別と慎重さに優れるものは誰もいないからだ。

60

(12)

〔観客に向かって〕俺にあんたの愛をくれ、俺の愛情を認めてくれ！

50

55

そうしたら、愛情こもった親和の宝を明らかにしてやろう、
あんたの意向にそった、お望みのものをくれてやろう。

あんたのそばには、溢れるばかりの豊富さばかりで、乏しさなどは近づけさせない。

(13)

さあ、俺の多種多様の変相自在ぶりをよく見ろ！

これらはしかるべき天然の素材によってそれぞれ作られ、

どの部分も、見たくれどおりとなっている、

足の裏から頭のとっぺんまで。

(14)

これはスペインのコルドバ産の柔らかいなめし皮でできた、先が尖った上等の靴だ。

これはもつとも値段が張る深紅の布で縫い込まれた長靴下だ。

このように、少年を紳士と張り合せてみると、

二ダースの子山羊皮の点飾りに、純銀の垂れ飾りを比べたようなものだ。

(15)

これは上等のオランダ生地シャツだが、支払いについては気にしなくていい。

これは色艶のいいレーンズ産のチョッキで、買うには最高のもの。

たとえ貧困が親玉でも、誇りだけはちゃんと持つてなくてはならん。

それに、傲慢を非難する人などいても無視しろ。

(16)

探してみれば、生綿、あるいはダブルット用の詰め物があるから、あんたのダブルットに詰め物をして、体の釣り合いをうまくしな——二本の小さな脚と大きな胴体とは釣り合いが取れないが、それでも、新しい流行にそつたものを欲しがるように気を配れ。

(17)

いいかい、三ヤードで作ったガウンでも、張り合ってみることだ、毎日、あんたより上の地位にいるすべての階層の人々と。

金の入っていない財布、信心の代わりに一振りの短刀、その非難は、よいか、罪を犯すのに抵抗することに向けられるのだ。

(18)

戒律で伸ばしはなしの鬢の房で、襟まで下がるあんたの髪の毛を呪う、左百三十七(85)夜になると人をくすぐる生き物を宿らせるために。

これは頭のとっぺんを覆い隠すための山高の小さな縁なし帽子だ。

そして、すべての乞食と貧乏人を軽蔑させてやる。

あんたの喜びを大きな誓言と色欲に向けろ。

あんたの社会的地位を維持するために賄賂を使え。
もし法律によってあんたが非難されたら、最後まで戦うつもりだと言え、
そして、あんたの意向にそった友を集めろ。

(19)

よいか、戒めも、律法も打ち立てるな、

民法と教会法規の両方も挫折させろ。

相手が神の民なら誰でも、誓言をもって必ずお互いを分裂させてやれ。

見ろ！ 俺の意向に添うように、この世はいまこの時、俺様にもたらされた！

俺様サタンは仲間とずうっとこの世を手に入れようとしてきたが、

いまや、いい時に手にはいった。

なぜなら、罪は恥なんかではないし、大胆不敵さを贖ったからだ。

だから、これをきっかけに、地獄のいわば相続財産を奴らに持たせてやろう。

(20)

乞食の娘は、物をたくさん貯えようとして、

できるだけ扮装をこらして、おとなしい女のふりをする。

もしも金が足りなければ、これが新しいやり口だ――

つまり、女は秘密の楽しみを利用して、男からふんだくるのだ。

アーミン毛皮や普通の毛、あるいは、サテンがついた、朝顔形に上向きに広がったのが女の首飾り——

105

これが女を買う奴らへ色欲を売りつけるための女の印しだ。

そして、色欲を買わないつもりでも充分に物は手にはいるだろう——
愛があるからだと言は告げるだけでいい、そうでないと否定しなくてもいい。

(21)

あなたに新しい名前を持ってきてやったが、その理由がやがてわかるだろう——
男にはそれぞれに目的があつて、罪づくりはとても楽しいことなのだから。

110

あなたは傲慢を誠実と、自然の情を好色と、呼べばいい。

百三十八

そして、強欲を智慧と呼べ——そうすれば、宝がいつでもついてまわる。

(22)

怒りと人間らしさ、それに節度と呼ばれるねたみ、

議会であらうが法廷であらうが、偽証を親玉にしたてよう、

大食は寝かせておき、禁欲も欠席させよう。

115

そうすれば、あなたを徳行へ向かわせようとやっきになる者は非難ごうごうだ。

(23)

俺に仕える者たちよ、すべてを詳細に語るには俺の論述はあまりに短い。

しかし、これらすべての罪の永遠の分け前を引き継がせてやる、もつとも、キリストが、その巧妙さゆえに、多くの問題を引き起こしているが、永遠に続く痛みの中に、奴らを俺と一緒にいつまでも地獄に置いておいてやる。

(24)

120

忘れるな、俺に仕える者たちよ、お前たちの魂は死を逃れられないことを。なぜなら、もつと物資を供給するために動かなくてはならない。相談を持ちかけてくる時には、俺はいつもあんたたちと一緒にいる。さて、いまはほんのちよつとの間だけ、俺はいなくなる。(退場。)

「洗礼者ヨハネの口上」

(1)

ヨハネ わしは洗礼者ヨハネだ。あなたたちに神のお告げを伝えよう――

わしの後に、そんなに長いこと待つこともなく、一人の人が来る。

わしより何倍も力のある方だ。

わしなど、その人の靴の紐を解くにも価しない。

それゆえ、すべての悪から心を切り替えるように、こうしていさめているのだ。

5

死に至る七つの大罪を良心によって責めさいなめ。

よいか、悔い改めを始めるのだ。

なぜなら、いまこそ天の王国が到来するからだ。

(2)

われらの主の道はあなたたちを苦痛へと投げ込むが、

よいか、自ら進んでその道を歩んでゆき、

できうるかぎり主の道を真っ直ぐにすることだ。

真っ直ぐに前に伸ばし、下り坂にするな、

右へでも左へでも曲げるな。

左百三十八

そうではなくて、真ん中から外れぬしっかりした道にせよ。

なぜなら、この道行きこそが、ほかのどんな道をゆくより、もっとも楽しいからだ。

15

わしが話し終えた時には、聞き取るとおりに耳に楽しい道だ。

(3)

主の道のことを道徳的に説いておく――

右側を慈愛であると理解し、

左側を絶望になぞらえよ。

脇にそれない二つの間の道には、

20

10

完璧に歩むために、希望と恐れがあるべきなのだ。

その必要があってもなくても、倒れることを避けるのだ。

大きな理由の数々をお前たちに示そう、

希望と恐れのを道をたどらねばならないわけを。

(4)

神の慈しみにすぎることがあつてはならない、

よいか、わしが言おうとしていることに気をつけなさい——

もうこれからは確信に基づいて罪を犯してはならない。

神が慈しみにあふれる方であることを信じなさい。

そして、しばしば見うけられることだが、もしも肉欲によつて

大罪を犯したのなら、それゆえに絶望してはならない。

そのかわり、罪の贖いをし、犯した過ちをすっかり認めれば、

天国を引き継ぐことを信じてよい。

(5)

そのような神の祝福を受ける天国の継承に続く道は

希望と恐れの一つがしっかりと結びついている。

この二つを分離させることはできない。

なぜなら、恐れのない希望は傲慢な態度の現われだし、

希望のない恐れは絶望している態度の現われだ。

百三十九

それゆえ、これら二つは一つに結び合わされていなくてはならない。

以上、あなたたちがどのような道をたどればいいかを明らかにした。

同時に、われらの主が来られるのに備える正しい道のことも告げた。〔退場。〕

40

「ユダヤ人会議」

〔ここで、アナスが舞台の一方に姿を現す。その前をゆくのは、緋色のガウンの上に白毛の縁飾りのついた紺外衣を着るユダヤ教司教で、頭に司教冠をかぶる。司教のそばには毛頭巾をかぶった二人の律法学者が立つ。その二人の前には錫杖を持つ者がいて、頭上に大きな瘤のある毛帽子をかぶる。その前に、使者となるトルコ人が立つ。〕

(1)

アナス 高位聖職者として、わたしには平和を用意する権限と、

ユダヤ法の裁判官として、法律を強化させる権限がある。

わしがアナスだ——権限によって律法を執行させている。

モーセの律法を誰にも拒否させはしない。

誰がわしの命令の範囲を超えたかを、直ぐに確認せよ。

5

このユダヤ教国で異教徒が支配しているなら、その苦情をわしに向かって言え。なぜなら、事実のすべてを確かめる権限がわしには存在し、主として、われらの掟のすべてをわしが維持させてゆかなくてはならないからだ。

(2)

もしもその反対のことが目に触れたら、一時たりとも勢力をふるわせはしない。そんな奴は直ぐにわしのところへ連れてきて、ここに立たせろ、

10

この裁判官の前に——そのことは躊躇するな。

やつらが罪を犯したら、判決を下さなくてはならぬ。

さて、皆の者、一つの提案として、わしの意向を聞いてくれ——

ナザレのイエスとかいう者がいて、われらの掟の限度を超えている。

もしも、このままを続けさせておいたら、われらは皆、後悔するだろう。

15

なぜなら、毎日毎日、奴はその言動でわれらの掟を破滅させているからだ。

(3)

それゆえ、あなたたちの進言を聞いて、皆で注意を向けなくてはならない、左百二十九この件に関して、どのような対策を用意すべきなのか、なにをしなくてはならないかに。なぜなら、もしもこのようにやらせておいて、さらに、このまま進ませたら、

われらのほうがローマ皇帝とわれらの掟に反する罪を犯すことになるからだ。

(4)

律法学者一 猊下、これがお勧めする建言です――

カヤパ様に人をやってご意思をお確かめください。

なぜなら、イエスがこのままに進んで、さらに前に進むようだと、われらの律法は破戒されることが目に見えているからです。

(5)

律法学者二 猊下、あなたに科せられて大きな責任を思い起こしてください――

間違うことが赦されない律法を維持させることです。

もしもあなたが言われたことに間違いの一つでも証明されたら、

ユダヤ人たちはあなたに事実確認を迫るでしょう。

どの建言が一番役に立つものなのかに注意を向けてください。

人をやってルービンとレオンを呼ぶことを建言します。

二人は世俗の裁判官ですが、しかるべき起訴条件をよく知っています。

これは、いとこのカヤパ様と一緒にこの件に関する法案を改正するためです。

(6)

アナス いまがいま、この進言のおかげで、わしの心臓は生き返った！

わしが見るところ、お前の進言が一番だ。

よいか、アルフェックス、直ぐに出掛けられるように急いで準備せよ。
いとこのカヤパに頼むのだ、話をしに来てくれ、と。

(7)

ルービンとレオンのところへもゆき、

二人に頼め、急いでわしと話すように、と。

重要な件について話を詰めておかなくてはならない、

今日の日が過ぎる前に公にしておかなくてはならないことだ。

(8)

アルフェックス わが支配者よ、ご意向にしたがってゆきます。

できうるかぎり急いで、

カヤパスと、ルービンとレオンのところへ赴いて、

二人があなたのご意向を実行するように伝えます。

百四十

〔ここで、使者は退出する。その間に、舞台の一方にカヤパが姿を現す。外衣以外はアナスに似た赤毛の衣装を身につける。二人の律法学者がそばにいて、昔風の毛外套と毛帽子をかぶっている。〕

(9)

カヤパ きわめて慎重な大司教として、ここに思慮深く説明しよう、

ユダヤ教の司教たちにすべての状況を。

わしがカヤパだ——有能な力を備えた裁判官で、

われらの掟に逸脱するすべての誤りを壊滅させる。

すべての事に理性と節度を持って執り行う。

そして、どんな問題でも、わしにとつては自明なものばかりである。

わしがモーセの律法を管理する第一の者だ。

最後の最後において、正邪善悪を分け隔てる役目を果たす。

(10)

ところで、われらの掟に逆らうキリストとかいうのがある。

邪悪な説教で民族を邪道に導いている。

奴の罪をとがめる方策を見出さなくてはならない。

なぜなら、このまま事が進んだら、われらの掟を無効なものにしてしまうからだ。

(11)

この件に関してはよくよく相談しておかなくてはならない、

真理を判断できる、掟をもっとも知る者——

つまり、パリサイ人の裁判官と、いとこのアナスと。

このまま順調に進ませると、いずれはわれらの掟を奴は打ち倒してしまおう！

(12)

律法学者一 わが主よ、このように申し上げることをどうぞお許しください——

われらが見るところ、その非難はあなた様が負わなくてはなりません、

このように来る日も来る日もキリストに事を続けさせているのは。

奴は邪悪な魔法でわが民族の目を暗まさせています。

奴は自然のすべての理に反する邪悪な奇跡を起こし、

左百四十 (65)

その奇跡をわが民族に信じ込ませています。

あなたの役割は奴を捕まえ、縄で縛り付け、

大罪の判決を下すことです。

(13)

律法学者二 猊下、実にこれは真理の裁判事件です。

われらの律法に対してあなたは圧力を加えておられる——

キリストをあなたの手から逃れさせ、

懲らしめてやらないからです。

アナスに聖職者と裁判官と共に、

掟についてのあなたの意向を知らせ、

キリストにその邪教を捨てさせるか、
牢獄へぶち込むか、どちらかにしましょう。

(14)

カヤパ 皆の者、直ぐにも目に物見せてやる――

その大罪のゆえに、奴が懲らしめられている姿を見せ物にしてやる。
もうこれ以上、わが民族をたぶらかせたままにはしてはおかぬ。

わしの支配権から逃れさせない。

〔ここで、使者がカヤパのところへ来る。その間に、レービンとレオンが姿を現わす。二人は毛外衣と毛の首飾りを身につけている。〕

(15)

使者 主権者であらせられる猊下よ、もしよろしければ、

わが主アナスの伝言をお伝えします――

事を止まずにお進められますように願っておいでです、
ご一緒するまでは。

(16)

カヤパ わしのいとこに必ずそうすると行ってくれ。
いとこに会うのが目的だ、

確実にわれらの役に立つ事のために――

わしには誰もこれまで遣いをよこさないでいるが……。

(17)

使者 猊下のご意思にわたしを委ねます――

もっと多くの遣い走りを必ず致しましょう。

カヤパ 行って来い、元気でな!

わしのいところで、わしの友にしかるべく伝えてくれ。

〔ここで、使者は裁判官たちに会う。〕

(18)

使者 ユダヤ民族の裁判官方にご挨拶を、大変慎重な判断力をお持ちの方々!

わたしが預かった用向きをお伝えします。

わが主アナス猊下はあなた方に伝えるようにわたしを遣わされました、

一刻の遅延なくお目にかかりたい、と。

(19)

レービン ご命令に従う用意ができています、

お屋敷でアナス様にお会いします。

われらの意向は

直ぐにでもご一緒することです。

(20)

リオン わたしどもは喜んでお会いしたいのです。

急いでまいります、とお伝えください。

正式な告示などはいりません——

おそばに急いでまいりますよう。

(21)

使者 お二方のおっしゃるとおりをわが主に伝えましょう。

あなた方のご満悦が得られることでしょう。

レービン 遅れることはないだろうと伝えてください、

いま直ぐ急いでまいります、と。

〔ここで、使者は今度はアナスのもとに来て言う。〕

(22)

使者 わが主よ、よろしければ、ご伝言をお受けください、

カヤパ様は急ぎいらっしゃる、とのことです。

レービン様とレオン様も御前にまみえ、

今日の日が過ぎる前にお会いする、とのことです。

(23)

アナス これはこれは、このように迅速な遣いに感謝しなくてはならぬ。左百四十一
いまから、いとこのところまで歩いて行って、出迎えよう。

皆のもの、わしの後に付いてまいれ、カヤパを迎えよう——
例の事をぜひと話し合わなくてはならぬ。

〔ここで、アナスはカヤパを迎えに行く。〕

(24)

カヤパ さあ、アナスのところへゆきましよう。

お互いがお互いの意向を知るために。

多くの事が頭にある、

それをアナスに明かそう。

(25)

律法学者一 他のすべての事よりも、この件をお忘れなく——

イエスの面目をなくさせるように気を配ってくださるように。

律法学者二 われらがアナス睨下の御前に出たら、

奴の大罪を必ず伝えましょう。

〔ここで、聖職者を連れた司教とパリサイ人が舞台中央で会う。そこはストールとクツシ

ヨンを備えた小礼拝堂で、会議場に似た様相が見て取れる。」

(26)

アナス カヤパ殿、よくいらした、それに、すべての裁判官の方々も。

あなた方にわしの意向のすべてを知らせよう。

みなの方、不思議な事が起こったのだ。

それについて判決を下さなくてはならない。

さもないと、後になって後悔するだろう。

キリストとかいう奴のことだが、神の御子だと呼ぶ者もいる――

今までに数々の奇跡を見せている。

支配者のなかの支配者だ、と言う者もいる。

(27)

ユダヤ民族は奴にくつついてしまった――

われらが観察したところ、秘密の方法を使ったのだ。

もしも奴がこのまま進んだら、やがては目にする事になるう――

壊滅されたわれらの掟を。

(28)

かくして、そのような仕事を否認するのがわれらの務めだ。

この件に関するあなたのご建言はどうなりますか？

カヤパ 理屈から言えば、ここで真理を裁くことができる。

わしが有罪の判決を下すには奴のほうに必ず罪とがなくてはならぬ。

なぜなら、奴はいたる所で言っている――

どの資格においても自分がユダヤ人の王であると。

それゆえ、奴が不法であることをよくよく覚えておけ。

ローマ皇帝が王であつて、それ以外の者が王であるはずはない。

(29)

レービン 奴は異端者で、大胆不敵な反逆者だ、

皇帝とわれらの掟に齒向かっています。

よく見れば分かりますが、言葉においても仕業においても。

大きな痛みと共に死ぬのに価する。

(30)

レオン われらがここに一同に会した理由は

法律の防御を固め、真理を口にするためだ。

イエスはわれらの法律をほとんど破戒したも同然だ。

それゆえ、奴は死に価する。

(31)

律法学者一 法律の守護者であるみなさん、

イエスに判決を下さねばなりません。

先ず奴を首吊りにし、はらわたを引き出し、

ついで、体ごと火炙りにしましょう。

(32)

律法学者二 こんどは、わしの意向を聞かせましょう——

われらに大きな恥をかかせたイエスを捕まえて

殺すのです、逃がしてはなりません。

逃がしてもしたら、庶民でさえあなた方を非難するでしょう。

(33)

律法学者一 どの土地でも、奴は魔法を手がけ、

民衆を自分の計画へと引きずり込んでいます。

裁判官たちよ、奴に法抜けをさせないように気をつける。

そんなことでもしたら、わしの真実にかけて言う、後悔することになるぞ！

(34)

律法学者二 みなさん、この事件に関しては気をつけるように、

そして、判決に手間取ることのないように。

こんな大罪を犯した人間はいままで一人もいない、われらの掟に逆らったイエスのような奴は。

(35)

アナス 兄弟たち、こんどはわしの意向を聞かせよう――

この九日間は待とうではないか？

そんなに性急に判決を下すことはできないが、

奴に味方する一人一人を尋問し、

国中にあまねくスパイを放せ、

よく観察し、記録し、証拠を集める。

そうすれば、奴は仕業を隠せないだろうし、

否定する力もなくなるだろう。

カヤパ この会議はわしの理にかなった。

アナス われらの意見も皆、道理に合った。〔退場。〕

「エルサレム入城」

(1)

イエス 友よ、見よ！ 恵みの時は

疑いなく、いまやもう来ている。

人間の魂はいまや喜悅に満ち溢れ、

この世の支配者サタンははじき出された！

(2)

後ろにそびえるあの城郭へ向かいなさい。

弟子たちの何人かでゆきなさい。

そこに二匹の動物を見つけるでしょう——

繋がれた一匹の雌ロバとその仔ロバだ。

その仔ロバを解き放し、じかにわたしの元に連れてきなさい。

誰かになぜそのようにするのかと尋ねられたら、

わたしがそのロバを必要としているから、と言いなさい。

そうすれば、邪魔立てをしないで、そのまま帰えしてくるだろう。

その仔ロバをわたしのところへ連れてきなさい。

弟子一 聖なる預言者よ、わたしたちはゆきます。

言われたことを先延ばしにはしません。

できるだけ早く、

あなたのところへ連れて戻りましょう。

〔ここで、仔ロバと共にロバを連れ去ろうとする。〕

(3)

市民 おいおい、立ち去ろうとしているあんたたちよ、聞きなさい――

その動物を連れてゆこうとしているが、

そのロバは貧しい人たちを助けるためだけにあるのだ。

言っとくが、そのように用意されているのだ。

フィリポ このようにロバを連れてゆくのを悲しがないでください。

今日のこの日に、先生がわたしたちをここへよこしたのです。

先生がとても必要とされているのです――なんの罪を犯すつもりはありません。

それゆえ、邪魔をしないようお願いしたい、

この動物を引いて行くのを。

市民 先生があなたたちをよこしたというのであれば、

ご意向を果たしなさい。

言われたとおりはその仔ロバを連れてゆきなさい。

事がいつもうまく運びますように！

(4)

小ヤコブ 見てください、ほら、こっちへロバを連れてきましたぞ、

聖なる預言者よ、あなたのご意思のままに。

それでは、この布を直ぐに

このロバの背中に敷きましょう。

フィリポ これで、ゆきたい所へ乗ってゆけます。

あなたの聖なる目的を果たすために。

あなたのロバの用意が整いましたぞ、あなたもご用意を！

この動物はいつもおとなしく、飼いならされています。

それに、われらもまた用意が整いました。

もしも楽しそうにお目に映ったら、

直ぐにお手をお貸ししましょう、

この動物の背中に乗られるご用意を――

あなたの旅を始めるのです。

〔ここで、キリストはロバに乗り、その場を離れる。ペテロとヨハネは留まるが、説教をすまずとイエスと最後には合流する。〕

(5)

ペテロ おお、絶望している人たちよ、喜べ！

それには大きな理由があることが皆にも分かるはずだ。

無からすべてのものを造られた主が

いまやって来られて、あなたたちを慰めようとしている。

あなたたちの悲しみのすべてを癒してくださいさるだろう。

健康はあなたたちが考えている以上に大切なものだ。

目の見えない人を見えるようにしてくださいさるだろう、

聞こえない人を聞こえるように、口がきけない人をしゃべれるように！

百四十四

(6)

足が曲がった人を歩けるようにしてくださいさるだろう、

230

洗礼者ヨハネが預言したとおりに。

そのような癒しが必ずや来る。

それゆえに、よいな、命じられたことに専心することだ。

目が見えない人がいることは否定できない。

なぜなら、あなた方を造られた主を精神の目では見分けられないだろう、

235

主の命令を実行するに当たって、あなたたちに大きな怠慢が見うけられるからだ。

それゆえ、魂の声が聞こえない者たち、とあなたたちを呼ばざるをえない。

(7)

加えて、あなたたちには足が曲がつているから歩けない人が何人かいる。なぜなら、善い行いを、有り余るほどには、ほとんどしていないからだ。

よく見よ、どの人にも足が二本あるはずだ――

ほとんど精神的な物質でできている体を支えなくてはならない。

まず第一に、他のすべての楽しみ以上に、神を愛することだ。

第二に、自分の身と同じように隣人を愛することだ。

そして、この二つのことが守れたら、

あなたたちは天国の館へ入ることができる。

(8)

あなたたちの多くは口をきかぬが、なぜか？ それは不正を直そうとしないからだ。

あなたたちの行為は大罪に違いない。その点において、罪は消えずに残る。

そのことを深く悔いて、罪を認めれば

あなたたちは天を継ぐことができる――このことは保証しよう。

そして、これらすべての病には魂の癒しを得ることができる。

なぜなら、天の癒しがあなたたちを訪れようと、いまやって来ている途中だからだ。

そして、贖いについては、主はなんの厳しさもお示しにならないはずだ。なぜなら、主はあなたたちの心の愛で報われるだろうからだ。

(9)

使徒ヨハネ 前に言っておいた兄弟たちに知らせてください、

左百四十四

もつとしかるべき自信を与えるべきだということ。

255

感謝の印として主と共にいきます、

主の証言を確実なものにするために。

主は抵抗させずに来られます。

いまや城郭に向かいつつあります。

それゆえ、しかるべき配慮を持って準備しなさい、

創造主であり王である主を崇めるために。

(10)

そして、主は預言者たちの預言を成就させるために、

ロバに乗り、ここへやってくるでしょう、

謙遜の例を示し、

傲慢という忌まわしい大罪を欠いたままで。

265

広いこの世のすべての場所は、傲慢さによって、ほとんど制圧されています。

260

あなた方すべての苦難の最大の原因がそれです。
使いたい奴には使わせなさい。なぜならそれが最善の助け手だからです、
地獄落ちの場所へゆくには。

(11)

さあ、神の前においての兄弟、われらには報せが届いています——
われらの主はこの都市の近くまでいらしています。

主がその貴重な入城をはたされるのは、

わたしたちにはふさわしいことです、とわたしには思えます。

それゆえ、いま主を迎えにゆきましょう。

わたしたちが行くのが遅すぎるという心配など少しもしていません。

主は都の直ぐ近くまでにいらした。

城門に近づいたと、わたしには思われます。

〔ここで、二人の市民が登場する。〕

(12)

エルサレム市民一 お隣さんたち、これで心に大きな喜びを持てますね、
百四十五

この天の王が当市を訪れるというのですから。

エルサレム市民二 われらの世俗の王がそのような旅をするというのなら、

王を崇め、拜むために、忙しくなるはずだ！

エルサレム市民三 そうならば、天の王となれば、もつともつとすべきことがある——
王にたいしてしかるべく崇敬するように。

エルサレム市民四 それでは、主をお迎えしよう、花と木の枝を手にとって。

なぜなら、芳しい匂いがするので、心楽しいと思われるでしょう。

〔ここで、四人の市民たちはわれらが主を迎える用意を整える。主は靴も靴下もはいていない。市民たちはシャツはそのままにして、ガウンを身の回りに投げ広げる。主の姿を見ると、市民たちは主の前に衣服を広げる。すると、主はその上を歩く。三人は一度に膝を付く。〕

(13)

市民一 いまこそ、主の名によって来る方が祝福されますように！

どんなふうでもいいから、われらに向かって歩み寄ってください！

あなたも同じように歩み寄ってけると信じます。

なぜなら、あなたの慈しみによって、人間の慰めが生まれ出るのですから。

〔ここで、キリストが通りかかると、花を持った何人かの子供たちが花をまき、「グローリア」を歌う。〕

子供 ダヴィデの御子孫である方、わたしたちを支えてください、

われらが死ぬことになる最後の日に。

それゆえ、われらは皆いつせいに、あなたに強く願います、

お恵みを、お恵みを、お恵みを、と叫びながら。

(14)

イエス 友たちよ、見よ！ 慈しみの時だ！

確かに、いまやその時が来たのだ。

人間の魂は、いまや喜びのうちに、大きくふくらむだろう！

そして、この世の支配者サタンは放り出された。

いままでに、いたるところで説教し、

夫婦に証拠を示したとおり、

この世の中に神の御子は、

真の愛のゆえに、人間を生き返らせようと努めた。

(15)

真理の真理がいまや試されるだろう！

そして、神と人間との間のむすびつきの完全さは、

それが真理であるので、決して裂かれることはないだろう、

魔王サタンの破滅になるからだ。

左百四十五

295

300

305

(16)

貧者一 ダビデの御子よ、わたしたちに神の恵みをお与えください、

あなたをしつかりと信じなくてはならないのですから！

主よ、あなたの善さにわれらを近づけてください、

ここに目が見えなくて、横たわっているのがいます。

貧者二 主よ、わたしたちにあなたの慈しみを確かなものとしてください。

わたしたちの肉体の視力を取り戻してください。

あなたならわたしたちを治せると承知しております、

偉大なるあなたのお力がほんのちよつと触れるだけで。

(17)

イエス あなたに信仰があるから見えるようになったのだ。

いまや罪のすべての苦痛から解き放たれたのだ。

わたしを信じる者すべてに神の恵みを得られるように！

肉体の目でなく、心の目でわたしを見るように！

〔ここで、キリストが祝福を与えると皆の目は見えるようになる。〕

貧者一 主よ、あなたの大きな恵みに感謝します。

見えなかったわたしが今は見えるようになりました。

貧者一 いまここに、わたしは罪のすべてを捨て去り、

あなたをしつかりと信じてゆきます。

〔ここに、「受難劇Ⅰ」が終わり、第二十七番演目「最後の晩餐」へ続く。〕